

第4学年 社会科 学習指導案

1. 小単元名『災害からまちを守るために』

(教科書：『小学社会 3・4 下』 p. 20～35／学習指導要領：内容（4）ア、イ）

2. 小単元の目標

地域社会における災害の防止について調べ、一秒でも早く火を消すための関係機関の働きと、そこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えることができる。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
一秒でも早く火を消すために行っている工夫や努力に関心をもち、意欲的に調べようとしている。	一秒でも早く火を消すために行っている工夫や努力を、地域の人々の生活と関連づけて考え、適切に表現している。	消防署・消防出張所を見学調査したり、資料を活用したりして、一秒でも早く火を消すために行っている諸活動の様子について必要な情報を集め読み取っている。	一秒でも早く火を消すために、関係する諸機関が相互に連携して、対処する体制をとっていることを理解している。

4. 指導にあたって

(1) 児童の実態

「消防士は、火を消すことが仕事」「火事の時に活動するのは、消防士だけ」と考えている子どもが多い。そこで、いざ火事が起きた時に火を消し人々を守るための仕事だけではなく、火事が生じないよう予防業務に従事している人々の様子を取り上げていく展開も必要だと考える。また、関係する諸機関や地域の人々も協力していることにも目が向くようにする。

(2) 教材について

本小単元では、消防出張所の S 隊長の営みについて取り上げ、「警防パトロール」に焦点を当てていく。警防パトロールでは、消火栓が壊れていないか、火遊びをしている人はいないか、ぼやは起きていないかなど、数多くの確認をしている。その中の一つ、「迷惑駐車が多い場所の確認」を取り上げる。消防に携わる人が大切にしている“早さ”を実現するために、「最初から」確実に使用できる「別の」道や消火栓を決めておくのである。しかし、本当の“早さ”とは、迷惑駐車がなくなり、最短ルートを通れるようになることである。その実現のためには、私たちがルールを守り、協力していくことが大切である。この事例を取り上げることで、日頃の業務と消火活動を結びつけたり、社会参画の芽を育んだりすることができる考えた。

(3) 指導上の工夫・留意点

消防士の日常の活動に子どもの目が向くように、防火服の試着体験を行った。日頃のトレーニングを入り口として、他の業務にも視野を広げていく。

5. 小単元の指導計画（総時数 10 時間）

時	ねらい	○学習活動 ・内容	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
① (つかむ)	火事から人々を守るためには一秒でも早く火を消すことが必要であることに気づき、そのための仕事に関心をもち、調べる意欲を高める。	火事が起きると、どんな被害があるのだろう。 ○火災の映像を見て気づいたことを話し合う。 ・約5分で大爆発につながる。 ・炎が小さいうちに消してしまえば、被害は広がらない。 ○住んでいる地域での1年間の火災被害について話し合う。 ・火事はいつ、どんなところで起きるかわからない。	◎火災の動画、火災発見件数や被害額、死傷者数 ◇近隣で実際に火災の被害があった地域では、子どもの心理に与える影響を考慮し、提示する資料を吟味する。 ◇火事から人々を守るためには早さが大切であることをおさえ、単元の追究の核とする。 ◆火事から人々を守るための仕事に関心をもち、調べようとしている。 (関・意・態／発言)
② ③ (調べる)	消火栓の分布を調べることを通して、消防設備にも早く火を消し止めるための工夫があることに気づく。	消火栓には、どんな早さの秘密があるのだろう。 ○学校の周りにある消火栓を見に行き、気づいたことを話し合う。 ・消火栓の口は道路側に向いていた。 ・目立つ色だった。 ○消火栓の分布図を見て気づいたことを話し合う。 ・狭い道路にもある。 ・街中にたくさんある。	◎道路に設置されている消火栓の写真、消火栓の分布図 ◇消火栓の分布図を消防署や消防出張所から提供してもらうことが無理な場合は、学校の周りの消火栓分布図を自作し代用しても、学習のねらいは達成することができる。 ◆消火栓の分布図などから、消火活動を早めることに結びつく工夫を読み取っている。 (技／ノート、発言)

④ ⑤ (調べる)	防火服の試着体験を通して日頃の訓練に目を向け、消防士の日常の活動について調べる。	○防火服の試着体験をする。 ・重いのに、消防士は着るのが早い。 ・着る訓練をしているのかな。 消防士は、普段どのような仕事をしているのだろう。 ○資料を使って、消防士の一日の勤務について調べる。 ・消防車や器具の点検 ・消火や救助の訓練 ・トレーニング ・パトロール	◎防火服、消防署の人の一日の勤務表 ◇消防士にゲストティーチャーとして来ていただき、自分たちが体験をした後に防火服を着てもらおうと、「こんなに早く着られるのだから、着る訓練をしているはず」と日常の活動に目が向く。 ◆資料から、消防士の普段の仕事について調べることができている。 (技／ノート)
⑥ (調べる)	消防署や消防出張所の見学を通して、出動する時の早さの工夫に気づくことができる。	消防署や消防出張所では、早く出動するためにどんな工夫をしているのだろう。 ○見学の中で見つけた、早く出動するための工夫について話し合う。 ・仮眠室では服を着たまま寝ている。 ・番号で出動隊が表示されて、一目でわかるようになっている。 ・長靴と防火服のズボンがセットになっている。	◎工夫を示す写真 ◇子どもの発言を観点ごとにまとめる。 ◇話し合いの時に写真を用意しておくことで、見学時には気づかなかった子どもにも、工夫の様子がわかるようにする。 ◆消防署や消防出張所の中の、早く出動するための工夫に気づくことができている。 (技／ノート、発言)
⑦ (調べる)	自分たちの小学校が火事になった場合の動きを確認することで、関係する諸機関の連携を理解する。	自分たちの小学校が火事になったら、どのように消火活動が行われるのだろう。 ○出動から消火までの一連の動きを確認する。 ・今まで調べてきた早さの工夫が一つでも欠けてしまうと命にかかわる。 ○教科書の消火活動のイラストを見て、話し合う。 ・警察の人が来て、人が入らないようにしている。 ・ガス会社や電気会社の人も来る。	◎学校周辺の地図（消火栓も配置したもの） ◎消火活動の様子（イラスト） ◇一連の動きの確認の後、教科書の消火活動のイラストを提示する。そこから、消火活動時、消防士だけではなく、様々な機関の人たちが協力していることを明らかにする。 ◆消火活動は、関係する諸機関が連携して行っていることを理解している。 (知・理／ノート、発言)

⑧ (調べる) 【本時】	S 隊長がパトロールで迷惑駐車が多い場所を確認している理由を考えることで、地域の住民も協力することが、消火活動の本来の早さにつながることに気づく。	S 隊長は、警察の人ではないのに、なぜ迷惑駐車が多い場所を確認するのだろう。 ○パトロールの理由を話し合う。 ・通りやすい別の道を決めておく。 ・つなぎやすい別の消火栓を決めておく。 ○迷惑駐車防止をよびかけるポスターの言葉の意味について考える。 ・迷惑駐車がなければ、もっと消火活動が早くなる。 ・迷惑駐車をなくすのは、私たちがやることだ。	◎迷惑駐車の車が並んでいる写真と絵地図（消火栓や住宅などの位置も示しておく）、迷惑駐車防止をよびかけるポスター ◇地域の中で迷惑駐車が多い場所を選び、その場所を絵地図に表して提示すると、子どもがパトロールの理由を考えやすい。 ◆パトロールの理由を消火活動の早さと結びつけて考えていると共に、自分たちの協力が本来の早さにつながることに気づいている。 (思・判・表／ノート、発言)
⑨ (調べる)	火事を防ぐために自分たちが協力できることを考える。	私たちが協力できることは、他にどんなことがあるだろう。 ○①と②の写真から、自分たちができることを話し合う。 ・燃え移りやすいものは、外に置いておかない。 ・ごみに放火する事件が起きているとニュースでやっていた。ごみ出しのルールを守ると、火事を減らすことにつながる。 ○③の写真から気づいたことを話し合う。 ・宣伝になる。 ・いろいろな人に参加してもらって、消防に興味をもってもらう。	◎①放置されている木箱の写真 ②収集日の前夜からごみステーションに出されているごみの写真 ③消防パレードの写真 ◇「ルールを守ること」「自分たちも興味をもつこと」の二つの視点をもてる資料を用意するとよい。 ◆火事を防ぐために自分たちができることを、具体的に考えている。 (思・判・表／ノート、発言)
⑩ (まとめる)	消防川柳をつくることを通して、これまでの学習をまとめる。	これまでの学習のまとめとして、消防川柳をつくろう。 ○消防川柳をつくる。 ・「わたしたちの 協力なしでは 火事減らない」 ・「早さには 警防パトロール 大切だ」	◆「消防士の活動の工夫」や「自分たちの協力」など、より早い消火活動を実現するための工夫を表した川柳をつくっている。 (思・判・表／川柳)

6. 本時の指導（第8時）

（1）本時のねらい

S 隊長が警防パトロールで迷惑駐車が多い場所を確認している理由を考えることを通して、普段の仕事が消火活動の早さにつながることを理解すると共に、消火活動の本来の早さを実現するためには、私たちの協力も必要なことに気づく。

（2）本時の展開

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
10	○消防士の仕事のひとつであるパトロールで、S 隊長がどんなことを確認しているか予想する。 T：S 隊長は、パトロールでどんなことを確認しているでしょう。 C：消火栓が壊れていないか確認する。 C：火遊びをしている人がいないか見る。 C：火事が起きていないか見る。 T：では、S 隊長が実際にどんなことを確認しているか聞いてきたので、映像を見てください。 ○パトロールで実際に行っていることを確認する。 S 隊長：『消火栓の状態や火の不始末はもちろん確認しますが、それ以外に、迷惑駐車が多い場所を確認しています。パトロールで、学校の近くの迷惑駐車が多い場所に気づき、出張所のみんなに知らせました。』 C：それは警察がやる仕事じゃないの？ C：消防士なのに、迷惑駐車を確認するの？ T：今日は、S 隊長がどうして迷惑駐車が多い場所を確認しているのかについて考えましょう。 S 隊長は、警察ではないのに、なぜ迷惑駐車が多い場所を確認しているのだろう。	◎S 隊長にパトロールで確認することを証言してもらった映像 ◇迷惑駐車の確認は警察の仕事のはずだという考え方を引き出すことで、学習問題をつくる。
15	○考えたことを発表し合う。 T：S 隊長が言っていた場所は、ここです（写真と絵地図を提示）。自分の考えをノートに書きましょう。 T：それでは、考えを聞かせてください。 C：消防車は大きいので、迷惑駐車の手前で通れなかったら、バックして戻らなくてはならない。この道路は通るのが無理だとわかっていれば、最初から違う道を通る。 C：消火栓の前に車が止まっていたらつなぎにくいから、遠くてもつなぎやすい消火栓を見つけておく。	◎迷惑駐車の手前で並んでいる写真と絵地図（消火栓や住宅などの位置も示しておく） ◇「現場へ行く時に関すること」「現場到着後、消火栓につながる時に関すること」の二つの視点にそって、子どもの意見を分類する。

	T: 最初から使う道や消火栓を決めておくと、どんなよさがあるのでしょうか。 C: 道を戻る分の時間がかからない。 C: 消火栓を見つける時間が省略できる。 C: 余計な時間がかからないから、消火の早さにつながる。 ○S 隊長は、本当はどの道路を通りたいと思っているのかを考える。 T: (地図を見ながら) この場所で火事が起きたとしたら、S 隊長は、本当はどの道を通りたいのでしょうか。 C: 出張所からいちばん近い、この道。 C: だから、別の道を通ることは、遠回りになっている。 C: でも、通れないから仕方ない。 ○S 隊長は、本当はどの消火栓にホースをつなぎたいと思っているかを考える。 T: (地図を見ながら) S 隊長は、本当は、どの消火栓にホースをつなぎたいのでしょうか。 C: 火事が起きている所からいちばん近い、この消火栓。 C: だから、別の消火栓につなぐことは仕方なくやっている。 T: 本当はもっと早く火を消すことができるのではないかと、ということですね。	◇迷惑駐車が多い場所を確認しておくことが、消火活動の早さにつながることを明らかにする。 ◇火災現場に最も近いルートや消火栓の位置を確認することで、本当はもっと早く消火活動が行える可能性があることに気づかせる。
15	○ポスターに書かれている「その一台が、どんなに迷惑か、考えたことがありますか」という意味について考える。 T: ある消防署で出しているポスターです。ここに書かれている文章を読みましょう。 C: 「その一台が、どんなに迷惑か、考えたことがありますか。」 T: 「迷惑」とは、どういうことでしょうか。 C: 消防士が火を消す時にじゃまで、迷惑だということ。 C: 迷惑駐車がなければ、もっと早く火を消すことができるから、迷惑。 C: 遠回りをしてくることで火を消すのが遅れるから、被害にあっている人にとっても迷惑。 C: 消火が遅れたら大変なので、迷惑駐車をやめてほしいとよびかけている。	◎迷惑駐車防止をよびかけるポスター ◇「迷惑」の意味を考えることで、自分たちも協力することが、本来の消火活動の早さの実現につながることを明らかにする。

5	○学習をふりかえる。 T：ノートに書いたまとめを発表してください。 C：S 隊長は火を早く消すために、使う道や消火栓をパトロールで決めておく工夫をしているけれど、それは本当に使いたい道や消火栓ではないので、お父さんには「迷惑駐車はだめだよ。」と言います。	◆迷惑駐車が多い場所をパトロールで確認している理由を、消火活動の早さと結びつけて考えていると共に、自分たちの協力が本来の早さにつながることに気づいている。 (思・判・表／ノート，発言)
---	--	--

7. 備考

<成果>

災害からまちを守るのは消防士だけではなく「私たち」でもあるという視点の変換を行う1時間として、迷惑駐車の実例を取り上げることは有効であった。

<課題>

単元のまとめに位置づけた消防川柳は、文字数が限定されてしまうので、4年生という発達段階では学習したことを効果的に表現することが難しかったかもしれない。